

—写真訪問①—

新千歳空港気象レーダー
(新千歳航空測候所)

新千歳空港気象レーダーは、空港周辺の気象を常時監視し、航空機の離着陸に必要な気象情報を提供する目的をもって、昭和55年6月から運用を開始し、平成4年6月で12年が経過した。

平成4年7月1日、新千歳空港ターミナルビルの移転に伴い、新千歳空港気象レーダー塔も南へ約4Km(図参照)の地点へ移設することとなり、平成3年9月から工事を開始し、平成4年2月に完成したが、将来ドップラーレーダーが設置される場合の対応も考えた建築構造になっている。

使用レーダー機器は旧機器を移設し使用しているが、新レーダー塔が約33m(旧レーダー塔は約20m)と高くなった関係上、NF(雑音指数)の向上を目的として高周波増幅器及び導波管内に乾燥空気を充填するため導波管加圧装置が新設された。また、新レーダー塔が新庁舎から約1.6Km離れ、遠距離となったため、観測室と新レーダー塔に通信接続装置も新設され、デジタル信号による制御を行うようになった。

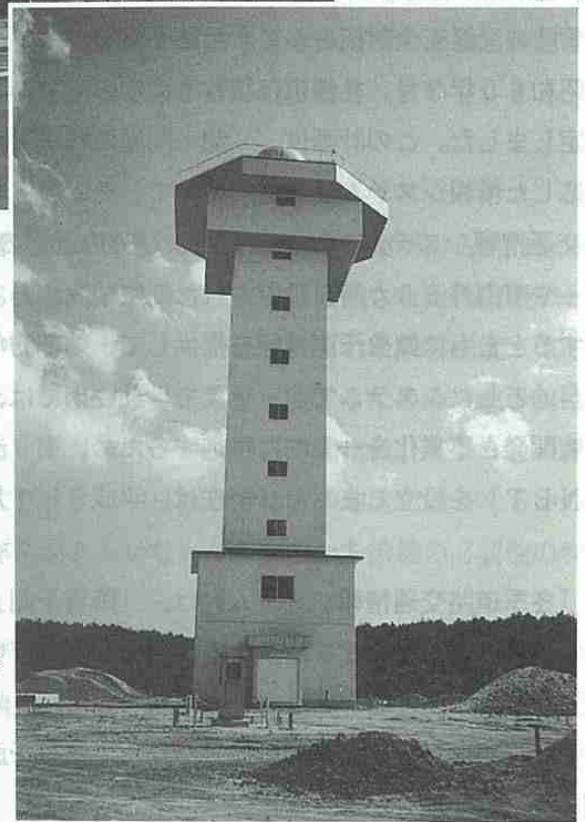
新千歳空港気象レーダーは、平成4年7月1日から運用を再開した。

(新千歳空港測候所、森江 光徳)

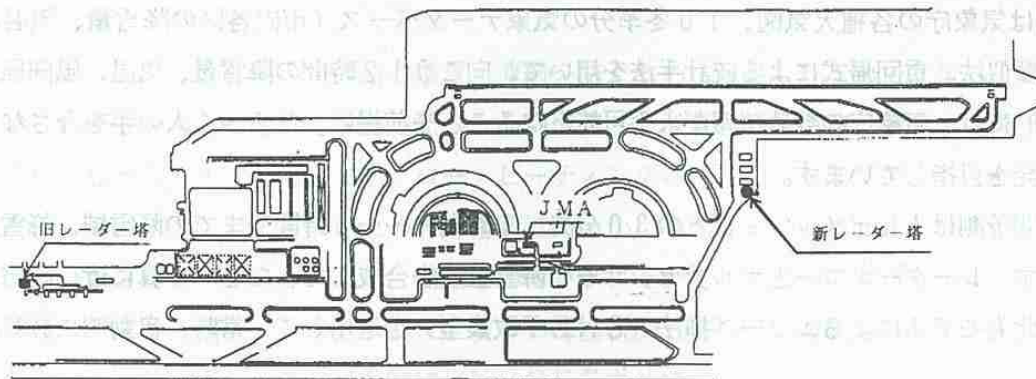
	旧レーダー塔	新レーダー塔
送受信所	北海道千歳市平和1388番地の4 千歳空港内レーダー塔	北海道千歳市美々 新千歳空港内レーダー塔
設置位置	北緯 42° 48' 23" 東経141° 40' 33"	北緯 42° 46' 16" 東経141° 41' 14"
空中線の高さ	海拔高 39.3m 地上高 19.3m	海拔高 54.8m 地上高 32.7m
定格出力	Po 100Kw	同 左
周波数	5300MHz	同 左
制御信号	アナログ信号伝送	デジタル信号伝送(通信接続装置付加)
導波管加圧装置	なし	導波管が長くなったため付加



新千歳航空測候所庁舎3Fに入居、屋上は観測棟



新レーダー塔



空港気象レーダー移設図